

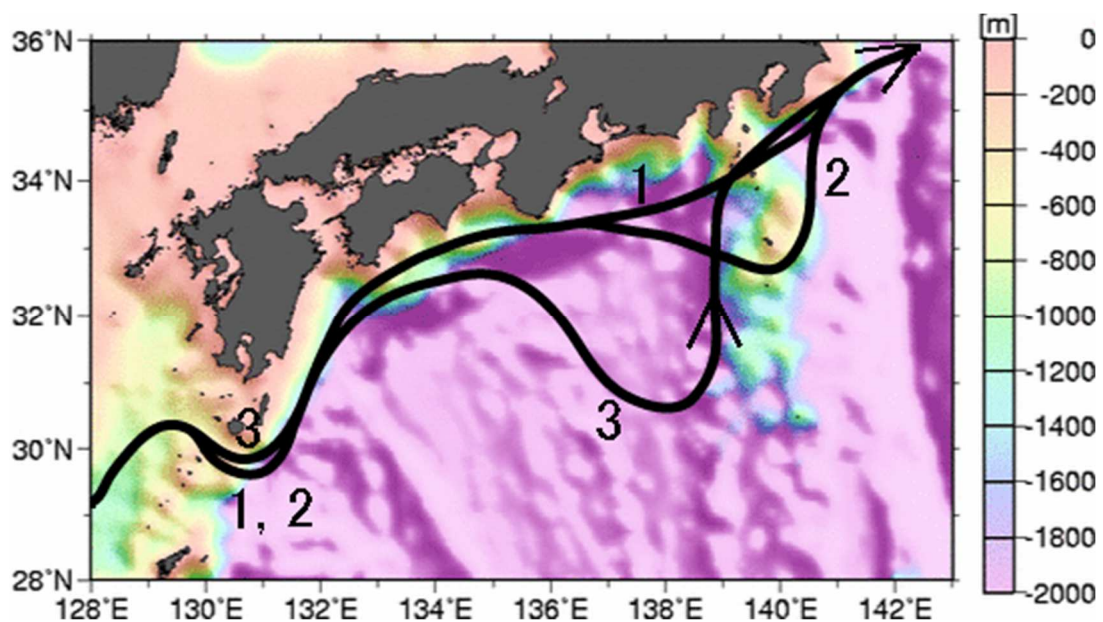
【黒潮について】

黒潮は、東シナ海を北上して九州と奄美大島間のトカラ海峡から太平洋に入り、日本の南岸に沿って流れ、房総半島沖を東に流れる海流です。流速は速いところでは4ノット(2m/s)以上に達し、その強い流れは幅100kmにも及びます。

本州南方を流れる黒潮の流路には、大きく分けて2種類の安定したパターンがあります。一方は、東海沖で南へ大きく蛇行して流れる「大蛇行流路」(下図の3)、他方は、四国・本州南岸にほぼ沿って流れる「非大蛇行流路」と呼ばれているものです。「非大蛇行流路」はさらに、東海沖をほぼ東に直進し八丈島の北を通過する「非大蛇行接岸流路」(下図の1)と、伊豆諸島近海で南に小さく蛇行して八丈島の南を通過する「非大蛇行離岸流路」(下図の2)に分けられます。

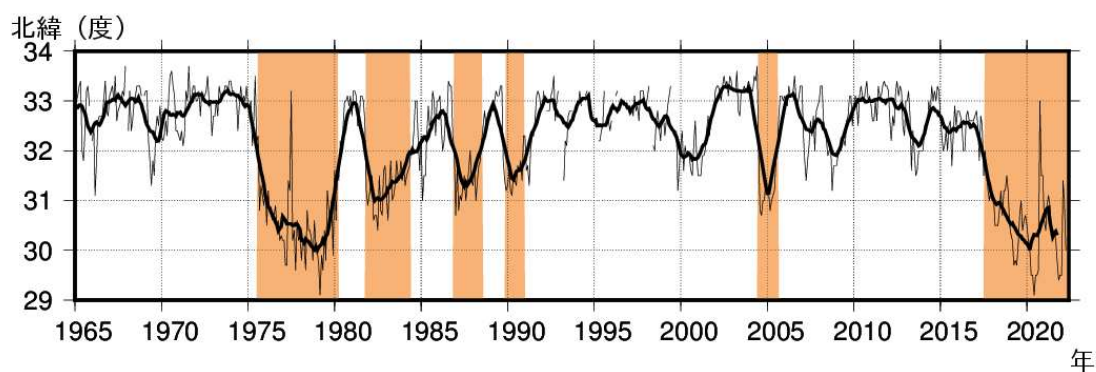
黒潮大蛇行の判定には、以下の2つの条件を用いています。

- (1) 潮岬で黒潮が安定して離岸している
- (2) 東海沖(東経136~140度)での黒潮流路の最南下点が北緯32度より南に位置している



本州南岸を流れる黒潮の典型的な流路

1 : 非大蛇行接岸流路 2 : 非大蛇行離岸流路 3 : 大蛇行流路



東海沖における黒潮流路の最南緯度の経年変動（1965年1月～2022年4月）

東海沖における黒潮流路の月ごとの最南緯度を細線で、13か月移動平均値を太線で示しています。オレンジ色は黒潮大蛇行の期間を表しています。東海沖（東経136度～140度）で黒潮が北緯32度より南まで南下した状態で安定していることが黒潮大蛇行の判定の目安の一つになります。